

第4回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成24年1月20日
- 会 場 青梅信用金庫本店会議室
- 審査委員 委員長:佐藤 秀明(日本写真家協会会員)
委 員:瀬戸 豊彦(風景写真家)
委 員:榎戸 勝洋(フィルムアーカイブス青梅)
- 応募作品 226点(62名)
内訳 ・多摩川の風景・人々部門・・・138点
・多摩川夢の桜街道 部門・・・ 88点

(総評)

フォトコンの広報について、主な写真クラブ、JR青梅線の主な駅構内、御岳登山鉄道の駅構内や青梅市内の公共施設にも行ったが、東日本大震災による影響などにより、応募者総数が62名(うちリピーターの方が38名、今回初めての参加者が24名。)という結果になった。皆様のご協力により、フォトコンを盛り上げていただき、今後も幅広い年齢層のアマチュア・カメラマンの写真が集まることを期待している。

(感想・意見)

- 全体として応募作品が少なく、ぱっとみて、惹かれる作品が少なかったのが残念だ。
- 昨年はいろいろと混乱があった年で、その影響もあって作品数が減ってはいるが、落胆するほどではない。このような年には芸術的な活動は重視されない傾向があるので、止むを得ないと思う。
- 桜の写真に素晴らしいものが多く見受けられた。多摩川にはまだまだ良い素材がたくさんあると感じた。
- 桜の写真は、毎年撮り続けている人が多いので、作品のレベルは維持されているが、他の場所は、自分の手持ちが少なくなっている。その中で、上位入賞を果たしている方々は、常に写真を撮り続けている人たち。
- トリミング次第で、もっと上位に入賞できる作品もあり、技術の向上も期待したい。

(反省・課題)

- 地域で行われる写真コンテストは、2回目、3回目くらいになると作品を出し切ってしまうため、応募件数が減る傾向にあるので、応募件数を増やすための活動が重要になる。
- 応募される方々にも進化を望みたいし、審査するほうも進化しなければいけない。これらは、我々の課題のように思える。
- 県外、地域外からも、参加していただくよう期待します。広報が重要になるが、そうすれば、今までに応募している方やこれから応募してくる方の刺激にもなる。実際にある地域のコンテストでは、広報活動等のPRが効いて、地域外からの応募が増え、作品レベルが向上したケースもある。
- 応募件数が少ないので、新しく参加して下さる方に裾野を広げて募集して行きたい。

以 上